

田中氏は最近、自分の弱さと向き合い、少々気弱になっています。それというのも、自分で決心したことが貫けないからです。

周囲の仲間からは、「決心そのものが本物でないからだ」と批判されます。田中氏にすれば「そんなことはない」と反論したいのですが、現実に決心したことがやれない以上は、その言葉も口にする事ができません。

若い頃の田中氏は、毎晩のように酒を浴びるほど飲んでいました。日によっては七、八合にもなり、部屋の中には一升瓶が所狭しと転がっていたものです。

ある時、どうしても仕上げねばならない仕事が入り込み、酒を飲んでいる時間的余裕もない状況に追い込まれました。飲み残しの一升瓶を机に置いて、「ただ今より酒を断つ」と自らに言い聞かせたのです。実際、その日之境に、田中氏は三十数年アルコールと名のつくものを口に運ぶことはありません。

仕事柄、様々な会合に顔を出し、その折に酒を勧められても、すべて断わってきました。そのために人間関係がギクシャクしたこともありましたが、最近では「田中はなかなか意志が強い」と評価してくれる人も出てきたのです。田中氏自身も、自分はいったんこうしようと思えば、それをやり遂げることが出来る人間であると思込んでいました。しかしそれが、タバコという難敵に出合っ

田中氏の苦悩



絵・わたなべじゅんじ

時あたかもタバコに対して厳しい時代となり、田中氏は禁煙を決意します。吸い残しのタバコを机に置いて、「ただ今をもってタバコをやめる！」と言うも、ものの五分もしないうちにタバコに手がいつて、いつのまにか口にくわえているのです。手元にあるタバコを全部ゴミ箱に放り捨て、これでスッキリしたと思つたのも束の間、ゴミ箱を漁っては吸い出すという情けなさです。

田中氏は、もう自分の力だけではダメだと思い、周囲の力を借りることにしました。人前で決意すれば、自分としてもプライドがあるし、周囲の厳しい目もあるのではやるだろうと思つたのです。氏はある会合で、「ただ今をもってタバコをやめます。今後、私がタバコを吸っている姿を見たら、もう私の言うことは聞かなくて結構です」と宣言しました。しかし、そのような時に限って、実は先日、息子が外国に行つて珍しいタバコを買ってきたので、君にやろうと持ってきた」という人が現われるのです。断わるのも気が引け、「ではそのタバコをいただいてから、本当にタバコをやめましょう」と言う始末で、とにかく決意したことが続かないのです。

田中氏は、酒とタバコは自分にとって違う」と言います。確かに物事には、そのような一面はあるかもしれませんが、要は「何が何でも」という心が欠けているのです。その決意が本物かどうかは、少し揺さぶられるとハッキリするものです。人から強いられるとハッキリ長続きしません。自らの内から沸き起こる決意こそが、人も物も環境も突き動かすのです。